

# 第3章

## みやぎの 文化・教育 スポーツ

*Culture,  
Education,  
Sports.*

- 東北大学は日本初の「女子学生」が誕生した大学である
- 仙台は「民間ユネスコ運動」発祥の地である
- 宮城県対がん協会はわが国で初めて集団がん検診を実施した
- 養賢堂・医学校に設けられた「蘭科」は日本最初の西洋医学講座である
- 公立小学校で初めて電子顕微鏡を設置した「岩沼小学校」と只野文哉
- 御釜神社で、日本唯一の塩作り神事「藻塩焼神事」が斎行されている
- 仙台市天文台の渾天儀は実際の観測に使ったもので国内唯一現存品！
- 仙台の「初売り」は日本一豪華な景品がつくとされており、正月の風物詩である
- 仙台七夕まつりは伊達政宗の時代から続く日本一の七夕まつり！
- 仙台は「楽都」とも呼ばれ多様な音楽祭を街中で開催している都市である
- 南三陸町に世界で初めてチリのイースター島から「モアイ像」寄贈！
- 気仙沼は「恋人」という言葉の発祥の地である
- 「おくのほそ道」（松尾芭蕉）の章段で最も多いのは宮城県である
- 仙台は「日本の近代工芸・デザイン研究」発祥の地である
- ペーブ・ルースが日本で初ホームランを放ったのは八木山球場である
- 重量挙げの三宅義信は、4度の五輪に出場し2回連続金メダル獲得！
- 仙台市の五色沼は、日本フィギュアスケート発祥の地である
- 五輪フィギュアで男女とも仙台ゆかりの選手が日本初の金メダル！
- 二代目谷風梶之助は郷土の誇り、天下無双の大横綱であった！

# 東北大学は日本初の 「女子学生」が誕生した大学である

みやぎの教育

日本初

仙台市

東北帝国大学理科大学



記念碑（東北大学構内）

東北大に入学した日本初の3人の女子学生



黒田チカ（化学） 牧田らく（数学） 丹下ウメ（化学）

（写真：黒田・牧田は東北大学史料館、丹下は日本女子大成瀬記念館提供）



1907年（明治40年）、東京、京都に続いて、3番目に東北帝国大学が開学した。「研究第一主義」と「門戸開放」をモットーに掲げ、向学心に燃える学生を幅広く集めようとした。

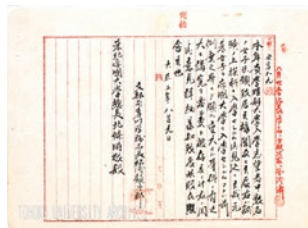
1913年（大正2年）、東北帝国大学理科大学の入学試験を4人の女性が初めて受験し、上記の3人が合格し、**大学側の判断で合格を発表**した。女性たちは、母校の東京女子高等師範学校や日本女子大で教師を務めていた。

この頃の日本の大学は、旧制高校を卒業した男子学生のための学校で、正規の身分で女性が入学することは考えられなかった。



## 旧文部省の驚きの対応

入学試験の直前、伝え聞いた文部省専門学務局長が、次のような説明を求める文書を第二代北條総長宛てに送っている。**「女子を帝国大学に入学せしむることは前例これ無き事にてすこぶる重大なる事件にこれあり、大いに講究を要し候」とある**（右文書）。



女子入学を巡る文部省質問状  
（東北大学資料館提供）



## その後の東北大学

100年も前にこの仙台で女性に大学教育の門戸を開放し、多くの女性達が続く道を開いた先駆者になったことを誇りとして。2002年（平成14年）には「男女共同参画推進のための東北大学宣言」を採択し、男女共同参画奨励賞（通称：沢柳賞）を設けた。

参考：東北大学史料館だより

# 仙台は「民間ユネスコ運動」発祥の地である

みやぎの教育

発祥の地

仙台市

ブーツの娘(榴ヶ岡公園)



ユネスコ憲章の理念と組織

戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなければならない!

ユネスコ民間協会(2017年)

○国内:約283団体

○世界:70カ国約3,500団体

ユネスコ運動発祥の地案内板



## 世界初、仙台に民間ユネスコ組織の誕生 晩翠草堂前の案内板

1947年(昭和22年)、仙台ユネスコ協会が発足した。これは**世界初の民間ユネスコ協会**であり、発会式において「日本人がユネスコを通して世界平和に貢献する」決意が表明された。この声明は障子紙に書かれてパリのユネスコ本部に送られ、その年に開かれたユネスコ総会で大きな反響を呼んだ。**仙台の地でスタートした民間ユネスコ運動**は、日本の国際社会への復帰と貢献の原点であり、日本がユネスコへの加盟が認められる原動力ともなった。その後の様々な活動なども評価され、1984年(昭和59年)、**第1回民間ユネスコ運動世界大会が仙台で開催**されている。

7月19日は民間ユネスコ運動の日

### 終戦直後に設立

1947(昭和22年)年7月19日、ユネスコ憲章の理念に感銘を受けた人々(外務省、東北大関係者、地元の有志)の設立準備は、空襲直後の物資も乏しいさなかに行われたという。「ユネスコと共に恒久平和の建設に貢献したい」との先人のこの行動は、宮城県民としての誇りである。

### 世界平和を見守る像『ブーツの娘』は双子で仙台とパリにある

1984年(昭和59年)の第1回世界大会記念として、会場の一つでもあった榴岡公園に彫刻が建てられた。宮城県出身の彫刻家佐藤忠良氏の手による『ブーツの娘』は2像あり、榴岡の少女はパリの方向を、もう一人はパリ本部から仙台の像と向かい合う形で建立されている。

# 宮城県対がん協会は わが国で初めて集団がん検診を実施した

みやぎの教育

日本初

仙台市

がん集団検診発祥の地碑

黒川利雄先生プロフィール



(宮城県対がん協会提供)



東北大学医学部教授学部長、第10代総長  
専門は内科学、消化器病学、胃がんの診断学  
1964年仙台名誉市民

文化・教育等

## 国内初、胃がん検診のX線装置を載せた車を開発 巡回検診が始まった

がん検診発祥の地 碑文 「山上に 山あり 山また山」

現代もっとも恐れられている「がん」は早期発見と早期治療によってその生命の多くを救うことができる。黒川利雄先生は早くから**集団検診による早期がんの発見を唱えその指導**のもとに西山正治、長谷川昭衛両博士は胃検診用X線間接狙撃撮影装置の開発と車両化に成功した。九嶋勝司博士は野田起一郎、姉齒皎両博士を指導し子宮がん検診車を考案した。(中略) ここに対がん活動三十周年にあたり**がん対策の創始者**黒川利雄先生の偉業を顕彰するとともにがん征圧の一日も早いことを願いこの碑を建立する。

昭和六十三年九月一日 がん集団検診発祥之地の碑 建立委員会

## がん集団検診の実態

県内各市町村では、住民の健康維持として、各種がん検診(胃がん、子宮がん、乳がん、肺がん、大腸がんなど)を実施している。**早期発見・早期治療のため、がん集団検診の実施に尽力に先駆者**に敬意を表したい。

2015年(平成27年)の部位別がん罹患率

## 知っておきたい宮城県がん罹患率

	1位	2位	3位	4位	5位
男	胃 19.8%	肺 15.1%	大腸 15.0%	前立腺 14.0%	食道 4.5%
女	乳房 21.8%	大腸 16.1%	胃 11.7%	肺 8.9%	子宮 6.4%

2人に1人はがんになる時代、がん検診はしっかり受けましょう！

# 養賢堂・医学校に設けられた 「蘭科」は日本最初の西洋医学講座である

みやぎの教育

日本初

仙台市



仙臺府學養賢堂圖(宮城県図書館所蔵)

養賢堂と医学校



仙台年中行事絵巻 養賢堂・医学館の図(仙台市博物館所蔵)

## 養賢堂から分離した「医学校の組織」

医学校(医学館):内科・小児科・外科・婦人科

せやくどころ  
施薬所:現代の付属病院

ふぞくやくえん  
附属薬園:薬草の栽培・供給

## 医学校として日本最初の西洋医学講座「蘭科」を開設した

養賢堂は、1810年(文化7年)に大槻平泉<sup>おつきへいせん</sup>が学頭となり、平泉の建議や蘭学の大家・藩医であった大槻玄沢<sup>おつきげんたく</sup>の後援もあり、医学校が分離独立して設立することが決まった。初代学頭には、設立に建議・尽力した渡部道可<sup>わたりみちか</sup>が任ぜられた。医学校の組織としては医学校と施薬所、附属薬園、他に青柳文庫・学頭役宅などが整備された。渡部は、学校の整備拡充に努め、1822年(文政5年)蘭科<sup>らんか</sup>を開設した。

**これは医学校として日本最初の西洋医学講座であった。**渡部は大変進歩的な考えの持ち主で、ここで佐々木中沢<sup>ささきなか</sup>を医学校助教に迎えた。中沢は大槻玄沢の高弟で和蘭医学を学び、蘭方外科の第一人者と言われ、医学校では外科を教授した。

## 当時の医学生

医学校に入学するには士分の資格が必要であり、藩医の子弟は8、9歳頃に医学校に入学した。一般庶民でも志のある者は、まず寺侍になり士分の資格を得て入学することができた。寄宿舎が設けられており、領内の遠方の者を寄宿生徒として住ませ、食費は藩費でまかない、優等生にはお金や医書が褒美として与えられた。

## 和蘭医学から漢方医学へ

医学校の西洋医学講座は、長くは続かなかった。解剖を不仁として蘭学は急速に衰退し、伝統的な漢方医学の教育が主流となっていき、**戊辰戦争により養賢堂、医学館とも廃校**となった。

参考:石川 松太郎ほか編集「宮城 江戸時代 人づくり風土記-ふるさとの人と知恵」農山漁村文化協会(1994)

# 公立小学校で初めて電子顕微鏡を設置した 「岩沼小学校」と只野文哉

みやぎの教育

日本初

岩沼市

只野文哉(1907～2005)

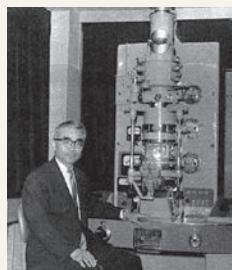


岩沼市図書館にある  
電子顕微鏡



(岩沼市教育委員会提供)

只野文哉と初期の  
電子顕微鏡



文化・教育等

2009年(平成21年)3月13日、岩沼市立岩沼小学校で電子顕微鏡を使った授業が行われた。この電子顕微鏡は、岩沼市出身の工学博士・只野文哉が勤務していた企業から岩沼市が購入し、日本の公立小学校として初めて設置された。

また、只野は、**31年間、岩沼市の小中学生延べ38,163人に対して科学の素晴らしさを伝える講演会**を続けた。

## 国産初の電子顕微鏡を開発した只野文哉工学博士とは？

只野文哉は、岩沼町南館下(現岩沼市大手町)出身。小学校を卒業後上京し、発明家・大野<sup>あたら</sup> 恰の内弟子になる。仕事を手伝いながら私立工手学校(現・工学院大学)の夜学に通い、成績優秀者として逓信省電気試験所の技工に採用された。

その後、電子顕微鏡研究の中心人物・笠井完の在籍する日立製作所の研究員になり、1941年(昭和16年)には国産電子顕微鏡「HU-1型」の製作に関わった。只野は1948年(昭和23年)電子顕微鏡の論文により、日本で初めて電子顕微鏡研究で東京大学から工学博士の学位を受けた。1955年(昭和30年)には、改良を重ねた電子顕微鏡HU-9型がアメリカの大学に輸出され、日本の科学技術を世界に示した。現在でも、日本は世界の電子顕微鏡のシェアでトップクラスである。

只野文哉は、定年後の1973年(昭和48年)、故郷の同級生達の呼びかけを受け、小中学生を対象に科学講演会を始めた。技術者らしい真摯な姿勢で質問に答え、亡くなる2年前の2003年(平成15年)までの31年間、子供達に科学の面白さ・素晴らしさを伝えた。



# おかま 御釜神社で、日本唯一の塩作り神事 もしおやき 「藻塩焼神事」が斎行されている

みやぎの文化

国内唯一

塩竈市

御釜神社



陸奥国一之宮として崇められてきた鹽竈神社の末社で、鹽竈の名前の由来ともいわれる御釜が祀られている

藻塩焼神事



御釜神社で毎年7月4日から6日までの三日間古代から伝承されてきた製塩法を再現する祭礼が行われる

文化・教育等



## 塩竈の塩作りは縄文時代から。3000年前の製塩土器も発見

塩竈市の御釜神社に伝わる藻塩焼神事に倣った製法で藻塩を作る。ここで執り行う製塩方法は、御釜神社の御祭神でもあるしおつち おじのかみ塩土老翁神により伝えられたとされており、この神事は宮城県の無形民俗文化財にも指定されている。伊勢神宮のように御塩殿神社を具え、製塩の無事を祈る行事を行う例は他にもあるが、製塩自体を祭礼で執り行っているのは、御釜神社の藻塩焼神事が日本で唯一である。



### 藻塩焼神事は3日間行われる

#### 初日の7月4日は藻刈神事が行われる

七ヶ浜町花浜浜沖へと神事船を出し、ホンダワラという海藻（このホンダワラの一つが食用で使用されているアカモクで、ギバサとも呼ばれている）を刈り取り、11時間煮つめて不純物を取り除く。蒸気が充満してとても神秘的。

#### 2日目の7月5日は水替神事が行われる

満潮時に塩竈市新浜町の釜ヶ淵で海水を汲み、木の樽に注いで担いで運び、御神体である御釜の水を新しい水に入れ替える。



### 3日目の7月6日が藻塩焼神事

藻塩を精製する藻塩焼神事にようやく迎り着く日。午後1時、御祭神に祝詞を上げ玉串を奉納した後、ホンダワラを通した濃塩水を鉄釜に注ぎ、石の釜に火打石で火が入られる。もうもうと湯気の立ち上る釜を神職の方々がかき混ぜて、2時間ほどで粗塩が出来上がる。



#### 全国から関係者や観光客が詰めかける

毎年、7月6日の藻塩焼神事には、全国の製塩関係者や多くの観光客が御釜神社に詰めかける。この藻塩は、7月10日の鹽竈神社例祭で三座の神前に御供えされ、嬉しいことに藻塩焼神事の参列者にも縁起物として配られる。



#### 四口の鉄製神釜は塩竈市の有形民俗文化財

7月5日に水替を行う四口の鉄製の神釜は、製造年こそ不明であるが、江戸時代初期の塩竈の絵図には既に描かれており、塩竈市の有形民俗文化財となっている。



#### こんな話もある

江戸時代、世に異変があるときには御釜の水の色が変わると言われており、水の色が変化すると仙台藩へ報告がなされていたという四口の神釜。東日本大震災で3mの津波が押し寄せたが無事であった。普段は屋根のないところに安置されているが、そこに混えられた水は溢れも枯れもしないというから実に神秘的である。

神社の奥には、神様が塩を運ぶために曳いた牛が姿を変えたという伝説の「牛石」が沈む池がある。普段はかなり見えにくくなっているが、水替え神事の際なら牛の背中を見ることができそう。池は海と繋がっているとも言われている。



#### コラム

#### 光源氏のモデルが憧れた地 塩竈

みなもとのとおる  
源融は美男子で知られ、源氏物語の主人公光源氏のモデルの有力候補とされている。

源融は嵯峨天皇の皇子で、左大臣にまでなった人物であり、陸奥出羽按察使(東北地方の行政官)を務めた経験から、自邸に塩竈の景色を模した庭園を造り、難波から海水を運んで藻塩を焼き、遙か陸奥の国塩竈のすばらしさを都の風流人に伝えた。

この贅をつくした庭「塩竈の庭」は、宇治拾遺物語や伊勢物語にも登場することとなり、また、屋敷のあった場所は、京都市下京区塩竈町という地名となった。



# 仙台市天文台の<sup>こんてんぎ</sup>渾天儀は 実際の観測に使ったもので国内唯一現存品！

みやぎの文化

国内唯一

仙台市

仙台市天文台



- 開台:1955年(昭和30年)2月1日
- 現台:2008年(平成20年)7月1日  
(現在地(錦ヶ丘)へ移転しリニューアルオープン)
- 来館者数:約30万人/年
- プラネタリウム:座席270席

(仙台市天文台提供)

渾天儀



## 渾天儀は実際の観測に使われた 国重要文化財

渾天儀は、星の位置を測定するもので、現存するおよそ42基のうち、仙台市天文台の渾天儀は**唯一、実際に観測に用いられたことが確認されているもの**である。

仙台藩の天文学者戸板保佑(1708~1784)の設計により作られた。青銅製で直系1m前後の4つの輪からなる。輪には**地平環、赤道環、天経環、四遊儀**の名が付く。中央の棒の付いた可動輪を使って星の位置を測定する。角度目盛は全周を365.25等分した東洋独特な太陽の一日の移動角となっている。地平環の裏面には1776年(安永5年)の銘がある。

### 渾天儀の発見

1948年(昭和23年)、仙台市内にある伊達家ゆかりの倉庫で偶然見つかった。

### 江戸時代の使用法

江戸時代、渾天儀は、江戸や京都などで、天文学者が天体観測によって暦を作るためにも使われた。「仙台藩も自分たちで暦を作ろうとしたのかもかもしれない。他を当てにしない、自主自立の気概が伺われる」と学芸員が語る。仙台藩が使用していた観測機器(渾天儀、象限儀、天球儀)は他では見られないものである。

# 仙台の「初売り」は日本一豪華な景品がつくと 言われており、正月の風物詩である

みやぎの文化

日本一

仙台市

## 仙台初売り



日本では昔から、1月2日は「**こと始め**」と言って、新年を迎えて初めての「事」を行うのに演技の良い日とされてきた。例えば「書」を習っている人なら「**書き初め**」、楽器を習っている人なら「**弾き初め**」を、また、商店では初めて商品を出荷する「初荷」、毎年1月2日に行われる「**仙台初売り**」もそうした考えから生まれた行事である。

文化・教育等

仙台初売りが歴史上の文献に初めて登場するのは、戦国時代。仙台市博物館によると、伊達輝宗が家督を継ぐ息子の政宗のために、正月の行事を書き記した「**正月仕置之事**」に残る記述が、最も古い。「**買い初め**」として、町の人にお金を渡し、米や塩等を届けさせていた。「**仙台が初売り発祥の地**」と言われ、1849年（嘉永2）発行の「**仙臺年中行事大意**」にも記述が見られる。

## 仙台初売りの特徴

仙台初売りは、国内外から福袋・お茶箱・割増商品券などを求めて、老若男女の多くの買い物客で賑わう。値段の高い安いにかかわらず、買う人に景品を出すのが習わしである。

## 仙台初売りは公正取引委員会も認めた制度

「仙台初売り」の豪華な景品をつける販売方法は、景品表示法に抵触して不当な販売の可能性があったが、1977年（昭和52年）公正取引委員会が「仙台初売り」の特例を定めた。仙台藩（旧一関藩含む）の領域で認められることになっているが、現在では仙台都市圏を中心とした行事となっていて、特例が適用される期間は**3日以内**である。



# 仙台七夕まつりは伊達政宗の時代から続く日本一の七夕まつり！

みやぎの文化

日本一

仙台市

仙台七夕まつり



仙台の七夕まつりは  
毎年8月6日から8日まで  
開催



仙台七夕

七つの飾り

- 吹き流しふなが
- 屑籠くすかご
- 投網なげなみ
- 巾着きんちやく
- 紙衣かみごも
- 短冊たんざく
- おりづる
- 折鶴

文化・教育等



仙台藩祖政宗公時代から続く伝統行事として、江戸時代から民衆に広まる。政宗公は、七夕に関する想いを和歌八首も詠んでいる。その中の一首

七夕は としに一たひあふときく さりてかへらぬ ひとのゆくすえ

1618年(元和4年)の七夕時に詠んだ和歌

## ◆七夕の歩み

- 明治維新の変革や新暦の採用、第一次世界大戦後の不景気で全国的衰退
- 昭和2年 商家の有志が“仙台商人の心意気”と七夕飾りを復活
- 昭和14年 第二次世界大戦で七夕まつりは中止/昭和20年7月10日仙台空襲
- 昭和21年8月6日 中断していた仙台七夕まつりを戦後初めて開催
- 昭和22年8月5日 東北巡行の昭和天皇来仙、市民七夕飾りの沿道で歓迎
- 昭和31年 NHKが仙台七夕まつりを初めて全国中継
- 昭和62年の七夕は「政宗ブーム」で過去最大の265万人の人出を記録



## 七夕あれこれ

青葉城恋唄、ミス仙台、仙台七夕おどり 懐かしい歌にも！

- 仙台の七夕は、市内各所に約3,000本の竹飾りが並び、200万人を超える人出がある。
- 日本で初めて花火を見た人物は政宗公かも（伊達治家記録:米沢城で唐人による花火）
- 政宗ゆかりの地でのイベント
  - ①瑞鳳殿七夕ナイト/②仙台城七夕ナイト/③大崎八幡七夕祈願祭
- 東日本大震災以降、人々の祈りの場にもなっている祭であり、短冊に復興への想いがつづられている。



# 仙台は「楽都」とも呼ばれ多様な音楽祭を街中で開催している都市である

みやぎの文化

日本初

仙台市

仙台国際音楽  
コンクール



(仙台国際音楽コンクール事務局提供)

定禅寺ストリートジャズ  
フェスティバル in 仙台



((公社) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会提供)

とっておきの音楽祭



(NPO 法人 とっておきの音楽祭提供)

文化・教育等

## 楽都『仙台』が誇る3つの代表的音楽祭

### 【仙台国際音楽コンクール】

3年に一度の開催でピアノとヴァイオリンの2部門がある。ヴァイオリン部門では、出場者が「コンサートマスターとしてオーケストラの中で演奏」が課せられ、全体を意識しながら、オーケストラが求める音色を出すという、プロとして大事な技量を審査される。これは**国内のコンクールで初の取り組み**である。

### 【定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台】

毎年9月に開催され2018年(平成30年)で28回を数える。参加バンド数約780組、出演者数約5,000人以上、ステージ数94(延べ)、来場者数は72万人、ボランティア1,089人(延べ)と「杜の都・仙台」を代表する音楽祭である。**同種の音楽祭では日本最大級と言われ、参加バンド数、出演者数は国内最大級である。2019年に「街ごと楽しむジャズフェス10選」で全国1位に選ばれた。**

### 【とっておきの音楽祭】

仙台市は「**とっておきの音楽祭**」の発祥の地で2001年(平成18年)に始まった。この音楽祭は、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽の力で「心のバリアフリー」を目指すものである。

他にも、「仙台クラシックフェスティバル」(略称せんくら)や「杜の都ふれあいコンサート」(5月~10月まで毎月1回開催)、仙台駅では「杜の都コンサート」、宮城県庁1階では毎月第4水曜日に「県民ロビーコンサート」が催されている。



# 南三陸町に世界で初めて チリのイースター島から「モアイ像」寄贈！

みやぎの文化

世界初

南三陸町

震災で流出したモアイ像の頭部が志津川高校に 世界初イースター島のモアイ像が南三陸町へ



(南三陸町役場提供)

文化・教育等



## チリ津波が縁のモアイ像が流出、世界で初めて、イースター島からモアイ像贈呈

- チリ地震津波（1960年（昭和35年））が縁でチリと友好関係を築いた31年後の1991年（平成3年）、志津川町（現南三陸町）は、チリ人彫刻家に依頼して製作したモアイ像のレプリカを町の公園に設置。
- 2011年（平成23年）の東日本大震災の津波でモアイ像が流出。後に瓦礫の中からなんとかモアイ像の頭部が見つかり、現在、志津川高校に設置されている。
- 南三陸町を訪れたチリ大統領は、**新たなモアイ像を贈ることを決意**。イースター島の長老会の協力を得て、モアイ像が贈られることとなった。
- 震災から2年後の2013年（平成25年）に**世界で初めてとなるイースター島の石を使ったモアイ像**が贈呈された。そこには復興への願いが込められ、**世界で2体しかない**といわれる目が入ったものであった。将来、新たに整備する公園に**新旧2体**が並ぶという。

### コラム

#### モアイと霊力

モ=未来、アイ=生きる  
南三陸町にとって

- 希望のシンボル
- イースター島との絆
- 一步一步復興

目が入るとMana（霊力）が宿ると言われている。



(南三陸町役場提供)

南三陸町は**モアイ像**で町を復興する！

南三陸町では、町の復興にモアイを役立てようとしている。皆さんも町内にあるモアイスポットを訪ねてみてはいかが？！



# 気仙沼は「恋人」という言葉の発祥の地である

みやぎの文化

発祥の地

気仙沼市

えんうんかん  
煙雲館



- 広く太平洋を望む海拔22mの高台で津波被災を免れた
- 「恋人」とは、直文と婚約中に病死した松野という説もある

## 「恋人」発祥の気仙沼

「砂の上にわが恋人の名をかけば 波のよせきて かげもとどめず」の歌碑は、1900年(明治33年)に弟子与謝野鉄幹の「明星」増刊号に寄稿されたもの。気仙沼が生んだ歌人・文化人 落合直文が明治以降の短歌において、初めて「恋人」という言葉を使った例と言われる。「明星浪漫派」を中心に広く浸透し、現代用語として定着したと言われる。

J R南気仙沼駅前一つの歌碑が震災前と同じ姿で立つ。

## 落合直文(1861~1903年)

直文は、松崎村(現気仙沼市)領主の鮎貝家の次男として生まれた。幼名は亀次郎。直文は11歳の頃に仙台に移り住み、神官になるための勉強を始めるが、国文学者の落合直亮に才能を見込まれ、14歳で落合家の養子になる。落合を名乗った後、東京帝大などで学問に励み、古典の現代語訳や辞書作りに取り組んだ。

## 煙雲館

直文の生家である鮎貝家は、伊達家の重臣であり、17世紀後半にこの地域に住むようになったといわれる。その屋敷は、霧がかかると庭に煙が雲のようにたなびくことから「煙雲館」と呼ばれた。鮎貝家は仙台藩伊達家御一家筆頭で、回遊式池泉庭園があり、仙台藩茶道頭清水動閑の作庭(気仙沼市指定文化財)と伝わる。2017年(平成29年)に国の名勝に指定される。

## 現在

市内の高校生たちは、直文の詩にちなんで「恋人発祥の地」の冊子を作り、「恋人ツアー」として、地域紹介などの取組をしている。



# 「おくのほそ道」(松尾芭蕉)の章段で 最も多いのは宮城県である

みやぎの文化

日本一

宮城県

章 段	地 域
1 百代の過客	東京都
2 旅立ち	東京都
3 草加	埼玉県
4 室の八島	栃木県
5 日光の仏五左衛門	栃木県
6 日光	栃木県
7 黒髪山	栃木県
8 那須野	栃木県
9 黒羽	栃木県
10 雲巖寺	栃木県
11 殺生石と遊行柳	栃木県
12 白河の関	栃木県～福島県
13 須賀川	福島県
14 浅香の花かつみ	福島県
15 しのぶの里	福島県
16 飯塚の佐藤宗司旧跡	福島県
17 飯塚の温泉	福島県
18 笠島	宮城県
19 岩沼の武隈の松	宮城県
20 宮城野	宮城県
21 壺の碑	宮城県
22 末の松山	宮城県
23 塩竈	宮城県
24 松島	宮城県
25 雄島の磯	宮城県
26 瑞巖寺	宮城県
27 石巻	宮城県
28 平泉	岩手県
29 尿前の関	宮城県～山形県
30 尾花沢	山形県
31 立石寺	山形県
32 大石田	山形県
33 最上川	山形県
34 羽黒山	山形県
35 月山・湯殿山	山形県
36 鶴岡・酒田	山形県
37 象潟	秋田県
38 越後路	山形県～新潟県
39 市振	新潟県
40 加賀路	富山県～石川県
41 金沢	石川県
42 山中の温泉	石川県
43 大聖寺	石川県
44 汐越の松	石川県～福井県
45 天龍寺・永平寺	福井県
46 福井	福井県
47 敦賀	福井県
48 種の浜	福井県
49 大垣	福井県～岐阜県



元禄文化期に活躍した俳人松尾芭蕉（1644～1694年）は、1689年5月16日（元禄2年3月27日）に江戸を出発し、約2400km・150日間の旅に出た。

旅を終えて3～4年後に書かれたとされる紀行文『おくのほそ道』（1702年刊）は、様々な文学的操作と事実・虚構の挿話が付け加えられた。その章段例を現在の都道府県別で見ると、左表のようになり、**最も多いのが宮城県**である。



おくのほそ道紀行三百年記念  
芭蕉・曾良像（石巻日和山）



奥の細道 標柱  
松島の「雄島」

※章段は各種解説書により異なり、章段名は読解の補助として設けられているものである。

また、章段毎の地域は、複数の県にまたがることもあるため、ここでは原文や訳文を参考としながら便宜的に区分した。

- 2014年（平成26年）に新設された国指定名勝「**おくのほそ道の風景地**」に、宮城県で7ヶ所指定されており、「**日本一の指定の数**」でもある。
- 東日本大震災で約150人が難を逃れ、津波から市民を守った「末の松山」も景勝地の一つである。

参考：井本農一ほか翻訳「おくのほそ道 芭蕉・蕪村・一茶 名句集」小学館（2008）

文化・教育等



# 仙台は「日本の近代工芸・デザイン研究」 発祥の地である

みやぎの文化

発祥の地

仙台市

近代工芸発祥の碑(宮城野中学校構内)



工芸指導所で開発された「玉虫塗」<sup>たまむしぬり</sup>



文化・教育等

## 工芸発祥の碑 碑文 碑は剣持 勇デザイン、正面には「工芸発祥」のプレート

明治以来ひたすら西欧追従に急な時流の中で、優れたわが国伝統の工芸に着目し、その近代化をはかり輸出を振興するため、さらには東北の産業開発の一翼になって昭和三年国立工芸指導所はこの地に創設された。工芸指導所は工芸を産業の技術として高め、わが国産業工芸の基盤をつくった。また「見る工芸から使う工芸へ」の指導理念のもとにドイツの建築家ブルーノ・タウトを招き機能実験、規範原型の研究を行うなど、近代デザイン運動を世に先駆けて実践した。まさに近代工芸及びデザイン研究発祥の地であることを思い、之を記念し、心あるもの相寄りこの碑を建てる。 昭和45年夏

### 設立

「工芸指導所」が設立されたのが1928年（昭和3年）、木工・漆工、金工、意匠図案の3部門に全国から受講生が集まった。

### ブルーノ・タウトの招聘

1933年（昭和8年）ドイツの代表的建築家といわれたタウトが指導所の顧問に招聘され、デザインの研究や技術開発を実施。世界的デザイナーの剣持勇らを輩出し、日本の工芸デザインの基盤を作った。1969年（昭和44年）製品科学研究所に改組され、役目を終えた。

### 玉虫塗

由来・歴史・技術は、東北工芸製作所（仙台）の玉虫塗、天童木工（天童市）の成形合板などに受け継がれている。**玉虫塗は、宮城県の伝統的工芸品**に指定されている。



# ベーブ・ルースが日本で初ホームランを放ったのは八木山球場である

みやぎのスポーツ

日本初

仙台市

八木山球場

等身大ルース像



落下地点



ベーブ・ルースがやってきた



文化・教育等



1934年(昭和9年)、全米選抜チームが来日し、全日本チーム(東京六大学チームが中心)と日米親善試合を行った。2年後の1936年(昭和11年)に日本でもプロ野球組織(日本職業野球連盟)が結成されるなど、国内でも野球人気非常に盛り上がっていた時期にあたる。11月9日、第4戦が宮城県営八木山球場(昭和4年に完成、東洋一を誇る球場との報道)で開催。好天に恵まれ、観客席は満員、球場周囲にも野球ファンが大勢駆けつけていた。そこで**ベーブ・ルースが日本で初のホームランを放った**。この日、全米チームは7対0で圧勝するが、チームが放ったホームラン5本の内、**彼が2本を打つ活躍**を見せている。このベーブ・ルースが放った来日第1号ホームランを記念し、2002年、ホームランボールの着地点である、現在の八木山動物公園のアフリカ園エリア内に等身大のブロンズ像が建てられた。建立したのは、野球ファンや市民有志である。



## ベーブ・ルース プロフィール(1885年~1948年)

身長188cm、体重97kg、左投げ左打ち、投手・外野手、「野球の神様」と呼ばれ、生涯通算本塁打が714本(39年間MLB最多)、最初にアメリカの野球殿堂入りを果たした球界のスーパースターである。



## 佐藤忠良氏作品 記録をつくった男の顔

仙台に日米本塁打王像が!

宮城県美術館内にある佐藤忠良記念館には、世界のホームラン王・王貞治さんの頭像「記録をつくった男の顔」が常時展示されている。

# 重量挙げの三宅義信は、4度の五輪に出場し 2回連続金メダル獲得!

みやぎのスポーツ

日本初

村田町

三宅義信顕彰胸像と建立の記(村田町)



略 歴

- 1939年 村田町沼辺に生まれる
- 1955年 大河原高校(現大河原商業)入学、2年時に重量挙げを始める
- 1960年 ローマ五輪銀メダル
- 1964年 東京五輪金メダル
- 1968年 メキシコ五輪金メダル
- 1972年 ミュンヘン五輪第4位

文化・教育等

## オリンピックにおいて、同じ大会の同じ種目に兄弟で表彰台に立ったのは日本初

村田町出身で重量挙げの三宅義信は、1960年(昭和35年)から4度のオリンピックに出場した。初めてのオリンピック出場となる第17回ローマ大会では銀メダル、第18回東京大会、第19回メキシコ大会では連続して金メダルを獲得し、4度目となるミュンヘン大会では惜しくもメダルを逃すが、4位入賞を果たした。

東京オリンピックにおける日本の金メダル第一号で、その後の競技に弾みをつけた。また、メキシコ大会では、弟義行(銅メダル)と表彰台に立ち、オリンピックの個人種目において、同じ大会の同じ種目に兄弟で表彰台に立ったのは日本ではこの一例のみである。

また、数々の世界記録(トータル8回、スナッチ13回、ジャーク6回)を樹立し、1993年(平成5年)ウェイトリフティング界最高の名誉とされる殿堂入りを果たした。まさに世界のスポーツ史に残る偉業であるといえる。

## 重量挙げを意識したトレーニング

三宅は、木を切る、ハンマーを振り上げるなどの独特のトレーニング法を編み出し、尋常ではない猛練習の合間に、港湾で荷揚げ荷下ろしなどの激しいアルバイトも課した。こうした自らの精神と肉体の錬磨があったからこそ、世界のトップに君臨したのである。



# 仙台市の五色沼は、 日本フィギュアスケート発祥の地である

みやぎのスポーツ

発祥の地

仙台市

五色沼



日本フィギュアスケート発祥の地碑



文化・教育等



五色沼は、1890年（明治23年）頃から外国人達が滑り始め、1897年（明治30年）頃に米国人デビンソンが子供達にフィギュアスケートを教え、1909年（明治42年）頃には二高生がドイツ語教師ウィルヘルにフィギュアスケートの基本を習ったことから、日本フィギュアスケート発祥の地とされている。これを記念し、五色沼のほとりに「**日本フィギュアスケート発祥の地**」の碑があり、男女ペアスケーターのブロンズ像（作品名『無限への軌跡』、作者翁ひろみ）がある。



## 日本における近代スケートの創始者

〔旧制〕第二高等学校の河久保子朗氏は、外国のフィギュアスケートを紹介した書籍を翻訳したり、実技の模範演技指導をしたりと、後進の教育にも励み、日本スケート会を創立し、日本のスケート界を世界レベルに押し上げていった。これらから、河久保子朗氏は、日本スケート界**最大の功労者**となった。



## 日本にスケートが伝わったのはいつか／オリンピックのフィギュアはいつから

1877年（明治10年）札幌農学校のアメリカ人教師ウィリアム・ブルックスがスケート用具を日本に持ち込んだことをもって、日本にスケートが伝わったとされる。

オリンピックでは、1908年（明治41年）10月に開催されたロンドンオリンピックで初めて男女シングルとペア、スペシャルフィギュアの4種目が実施された。当時はまだ冬季オリンピックが開催されておらず、夏季オリンピックでの実施であった。



# 五輪フィギュアで男女とも 仙台ゆかりの選手が日本初の金メダル！

みやぎのスポーツ

日本初

仙台市

フィギュアスケートモニュメント  
(地下鉄東西線 国際センター駅南側)

モニュメント概要



- 素材はガラス製で描写は2人の五輪時の姿
- 説明板には2人の実物大の手形もある
- 除幕式・記念イベント  
2017年(平成29年)4月16日

文化・教育等

## オリンピックフィギュアで日本初の金メダルは仙台ゆかりの選手！

### ●荒川静香さん

2006年(平成18年)トリノ冬季五輪のフィギュアスケート女子で、**アジア人初の金メダル**を獲得した。代名詞はイナバウアー(2006年の流行語大賞)。現在はプロスケーターで、日本スケート連盟副会長である。

### ●羽生結弦さん

2014年(平成26年)ソチ冬季五輪でフィギュアスケート男子**日本人初の金メダル**。  
2018年(平成30年)平昌冬季五輪で**66年ぶりの五輪連覇**の偉業を遂げた。

二人とも、数多くのトップスケーターを輩出した「アイスリンク仙台」をホームリンクとしてトレーニングし、先輩後輩の間柄等の共通点が多い。

## 県民栄誉賞、賛辞の盾、国民栄誉賞

荒川静香さん、羽生結弦さんとも、金メダル凱旋パレードが仙台市内で行われ、多くの市民やファンの祝福を浴びた。二人のこれまでの主な受賞経歴は以下のとおり。

- 荒川静香さん／県民栄誉賞(宮城県)、賛辞の盾(仙台市3回)、世界フィギュアスケート殿堂入り
- 羽生結弦さん／県民栄誉賞(宮城県2回)、賛辞の盾(仙台市2回)、国民栄誉賞

# 二代目谷風梶之助は郷土の誇り、 天下無双の大横綱であった！

みやぎのスポーツ

日本初

仙台市

二代目谷風梶之助銅像(勾当台公園)とプロフィール



生没:1750年~1795年(享年44歳)  
出身:宮城郡(現若林区)霞目村  
入門:19歳初土俵40歳で横綱(4代)  
身長:188cm、体重160kg  
勝敗:生涯総取組49場所309番中、  
負けはたったの14(勝率  
94.9%)  
記録:63連勝(止めたのは小野川)  
7場所連続無敗が2度

谷風梶之助の碑(東漸寺)



墓は若林区霞目にある

## 「わしが国さで見せたいものは、昔谷風 むかしなにかぜ 今伊達模様 いまだてもよう」

…と歌われ『谷風の前に谷風なし 谷風の後に谷風なし』と讃えられ、力量だけでなく人柄も温厚篤実で品格抜群であったため、谷風は**歴代横綱の第一人者**と称された。第4代横綱だが、**実質的な初代横綱**として、天下無双の大横綱と言われた。

大横綱にふさわしい実績から、四股名「谷風」は**止め名**になっている。通算成績は**258勝14敗16分16預5無勝負112休**、**21回の優勝と63連勝(年二場所制)**を記録し、後の昭和の時代に双葉山が69連勝を達成するまで、約150年間にわたっての**記録保持者**でもある。谷風は、現役のまま流感にかかって郷里で亡くなった。この風邪を「タニカゼ」という。

### 初代の横綱

初代から3代まで横綱という制度がなかったとする説

1789年(寛政元年)に谷風と小野川喜三郎の二人が、吉田司家から同時に横綱を免許されたことが横綱としての実質的な称号の始まりで、谷風が**初代横綱**として定説となっている。

### 小野川喜三郎との一番

1791年(寛政3年)の將軍家斉の上覧相撲で、同じ横綱小野川と対戦し、世間の注目を集めた。結果は、「待た」をかけた小野川が敗れた。この時に將軍家から弓を賜り、これを手に取り土俵上で舞ったのが、「**弓取式**」の**始まり**と言われる。